

今年は申年で一味は年男でした。(年がばれますね。)一味の今年はバーモント州にあるミドルベリー大学での仕事の面接で始まり、三月には日本語学校の校長に選任されました。任期は2005年の夏から三年間です。契約上は夏だけの仕事なので、パデュー大での勤めには影響がありません。でも、夏の間に日本に帰ったりすることはできなくなります。ダイビングとゴルフの時間も減ります。(はい、はい、同情の声は聞こえてきませんね。でも、この学校は外国語教育では老舗で有名なプログラムなので、やりがいがあると同時に、本人はかなり緊張しています。)4月には米国中西部地区の日本語教師のための学会を、同僚や学生達に助けられて、開催することができました。また、コンピュータグラフィックスを外国語教育に利用するための研究は続けていますが、こちらはなかなか大変です。日本語教育学会のオンラインIT講座は今年も1月から3月まで開催し、世界中から30名の方が参加なさいました。

由紀子は一月から研究休暇に入り、アイオワ大での勤めからは一応解放されて、編集や執筆活動をしています。でも、休暇といっても遊んでいるわけではありません。また、一応解放ということでも電子メールを通して色々雑用は入ってきているようで、コンピュータの前に釘付けになっています。そのせいか、三年前に買ったコンピュータが、去年から7回も壊れ、11月にはついに下取りもしてもらえないくらい壊れてしまいました。

五月下旬から、かねてよりの念願だったジンベエザメと泳ぐという夢をかなえにオーストラリアへ行きました。日本にすでに戻っていた由紀子は東京から飛んで、一味はアメリカから飛んで、メルボルンで合流しました。メルボルン在住の友人橋本博子さんにお世話になり、楽しい数日を過ごした後、いよいよ西オーストラリアに向けて出発しました。1998年に行って大変気に入ったコーラルベイというパースから飛行機で3時間ほど北にある小さなリゾートに行きました。以前とあまり変わってなく、相変わらずのんびりとした所でした。それでも、ジンベエザメシーズンということもあり、前回よりは賑やかでした。ツアーは朝、皆で船に乗り込み、セスナが空からジンベエザメを探して、見つけたところに船が行って、お客が海に入って一緒に泳ぐというものです。ジンベエザメを待っている間、マンタ(イトマキエイ)と一緒に泳ぐというおまけもついています。(マンタと泳ぐというのも十分ツアーの目的になるので、それがおまけというのはとても贅沢な話です。)でも、我々が行った日はなかなかジンベエが見つからず、はらはらさせられましたが残り15分というところで、発見の連絡が入り、無事一緒に泳ぐことが出来ました。5メートルほどの小さいジンベエザメでしたが、念願になって大満足でした。(由紀子は、飛び込んだところにジンベエザメが泳いできて、正面から顔を見ることができました。一味はどんくさかったので、後ろから必死で泳いでいきました。

写真は <http://www.sla.purdue.edu/fll/personal/hatasa/hatasapersonal.html> で閲覧可能です。)

一味の夏はまたまた旅行ばかりでした。オーストラリアからアメリカに戻ってすぐ、ミドルベリー大学に校長見習いとしてバーモントで2週間滞在。その後、日本に行って東京に3週間滞在、そして、また米国に戻って再度ミドルベリーで2週間、最後にヨーロッパ日本語教育学会の招きでフランスのリヨンに1週間滞在と立て続けに動き回りました。日本にいる間にはくろしお出版の岡野氏と由紀子の教え子の河野さんといっしょに沖縄珍道中を決行しました。八月にはプリンストン大学で恩師の牧野先生の古希記念論文集の目録の贈呈式が行われ、色々な人たちと会うことができ、楽しい集まりになりました。(本の出版は来年で、一味と由紀子の論文も収録されています。)また、一味はリヨンとプリンストンでは去年と今年のオンライン講座に参加者の何人かと初めて顔を合わせるということがあり、オンライン講座の面白さの一面を味わいました。

由紀子は7月から6か月間、国際交流基金の研究者としての東京生活が始まりました。久しぶりの日本の生活を楽しんでいます。十月には新潟で行われた日本語教育学会の秋季大会で基調講演者の一人として参加して、発表しました。(日本の学会で発表するのは初めてだったので、緊張していましたが、内容のとてもいい発表で参加者はみんな感心していました。)その後、新潟は中越地震に襲われて、大変でした。東京でも何度か感じて、「また、新潟が揺れているな」などという会話が交わされました。

九月からは一味も研究休暇年なので、交流基金の由紀子のプロジェクトを手伝うために九月末から5週間ほど東京に戻り、ビデオ撮りの段取り、カメラマン、音声など初めての仕事を色々経験しました。でも、その結果、相当量のビデオを撮ることが出来、これから編集にかかります。(撮影に協力してくれた、根岸の皆さん、小学校の同級生、留学生のジェイソンに感謝します。また、交流基金の門上さんには技術面で世話になりました。)いつも夏と冬にしか帰らないので、日本の秋というのは本当に何十年ぶりでした。

由紀子は一月五日まで東京なので今年は日本の年末年始を堪能することでしょう。(もうすでに忘年会などが始まっているようです。)今の中に、楽しんでいただ方がいいでしょう。来年になると「なかま」の改訂作業が本格化し、チョー忙しい日々の始まりですから。

チビタンは十月に老犬性の発作をおこし、めまいがひどくて、3日ほど入院しましたが、現在はほぼもとの状態に戻るまでに回復しました。発作が起こったのが、一味が日本に行った直後だったので、お留守番を引き受けてくださった高木先生や大学院生諸君にはすっかりお世話になってしまいました。ミータローは今のところひょうひょうと生きています。(でも、何とか家の外に出ようと隙をねらっています。一度だけ成功して約30分外にいました。)(追伸：一味は初めて老眼鏡を買いました。コンピュータ用です！)

お体に気をつけて、楽しいクリスマスとよいお年をお迎えください。

一味 & 由紀子

\*\*\*\*\* 頌春 2005年 酉年\*\*\*\*\*